

いま 風 木曜日

あなたの癒やしは何ですか。年末、仕事納めのあいさつをしてしまっただけで上司(40代男性)から「コラコラ、威嚇してまわらない」とたしなめられる私だが、かわいいペットには優しい(つもり)。冬ならではの、動物とふれあってほっこりできるレジャーを求め、犬ぞりに挑戦した。

東京駅から新幹線とタクシーを乗り継ぎ2時間30分、群馬県みなかみ町の「水上高原スキーリゾート」に到着した。気温は2度。見渡す限りの銀世界だ。ここでは2012年から犬ぞり体験を始め、昨年は約200組が体験した。

レンタルウェアに着替え、犬ぞり使い「マッシュヤー」の平井俊介さん(30)と、妻でチエコ出身のルツカさん(31)と合流した。平井さんは国内チャンピオンである父・寧さん(63)の影響で17歳の時に犬ぞりを始め、翌年にはアラスカで行われた世界ジュニア大会で準優勝した経歴を持つ。

今回は、平井さんと2人で乗って操縦の感覚をつかんだ後、記者1人で乗る流れ。ま

■今回使ったもの  
 レンタルしたのは①スキーウェア上下(3800円)②スノーブーツ(2200円)③手袋とゴーグル(各1000円)。④帽子⑤日焼け止めは寺参。自前の服でも大丈夫だが、犬のおいがつくので、気になる人はレンタルがお薦め。



平井さん(左から2人目)の「紹介」で相棒となる犬たちと対面する(手前が記者、1月7日、群馬県みなかみ町で) —岩佐謙撮影

## 犬ぞり

上 ■ 基礎編

# 操縦感覚「完璧」お墨付き

ずは2人乗りの乗り方を実習。木とカーボン製のそり(全長約2.5m、重さ約10kg)に立って前傾姿勢で前の手すりにつかまる。平井さんが後ろに立ち、「二人羽織」状態で操縦してへくれる。

操縦自体はシンプルだ。「右折する時は右に、左折は左に体を傾けます」(平井さん)。雪が積もり、左右どちらかが高い道では、そりが転がらないように高い方に体を傾ける。バランス勝負だ。犬では

なく平井さんにロープで引っ張られて、実際のコースで難所となるカーブでの体の使い方を練習。「完璧です」と平井さんのお墨付きももらい、いよいよ犬と対面だ。

きたのは6頭のミックス犬。ルツカさんが手際よくリードを車につないでくれ、1頭ずつにごあいさつ。今回最年長のアナ(6歳、メス)は甘えん坊。「よろしくね」。首筋をイイコイコしながら語りかけると、無垢な瞳でこっちを見つめ、右前脚で何度も「お手」をしてきた。なんて愛らしいんだ。そうか、私もこうすればいいのか(たぶん違う)。(松崎美保)

\* 次回(30日)は「犬ぞり②」。  
 \* 『でかける』は毎週木曜掲載。

### 交通手段から観光用に

シベリアやアラスカなど、馬や車輪が使えない高緯度の寒冷地域での交通・運搬手段として発展。1920~30年代のスノーモービルの普及後は、レースや観光用が主体に。国内では主に北海道と群馬県で体験可。

■水上高原スキーリゾート  
 群馬県みなかみ町藤原6152の1 犬ぞり体験は4月5日まで(2月27日~3月3日を除く)。1日8組限定。

今回体験した「マッシングライドプラン」(110分、中学生以上)は平日のみで、1人1万8000円。インストラクターと乗り2人組を走る「体験ドライバープラン」(50分、小学生以上)は1人9500円。いずれも2人1組で、前日午後1時までに申し込む。0278・75・2222。



平井さんに引かれ初めて犬ぞりに乗る



平井さんの奥様、ルツカさん

記者 まつざき・みほ 実家で飼う2匹のミニチュアダックスフントの「帰らないで」攻撃にめっぽう弱い。